

授業科目名	障害者福祉研究	単位数	2
担当教員名	佐々木 剛	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	長年、特別支援学校(養護学校)及び通常の学校現場を経験し、その後、教育行政で教育相談研修の企画、及び運営を担当した。現在は、高齢者や障害者と地域との結びつきを世代間交流から研究を進めている。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>本講座では、社会啓発の観点から障害観や教育論、医療・看護の概念等、社会一般が持つ意識を整理した授業を進めている。この概念は、本学が掲げる「共生科学」の基本構成要素を探索する人材育成に寄与する。本講座は、具体的な場面で活躍する人の規範意識・倫理観を高めようとしている。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 身近なところで起きている障害者をめぐる課題を受け止め、その要因を自分で考えることができる。</p> <p>(2) 障害のある人をめぐる現状の体制をインクルージョンの理念から再考し、今後のあり方について実践的に考え、実行しようとする。</p> <p>(3) 障害のある人や子どもの福祉の方策について、幅広く国内外の動向から手法を学ぼうとする。</p> <p>(4) 障害の種別や程度により生じる諸課題について考え、生活支援とは何かをレポートにその具体的な考えを記述し、提言しようとする。</p> <p>(5) 社会参加のために「ソーシャル・キャピタル」等、新しい分野の研究や活動に目を向け、「橋渡し型ネットワーク」の構築を追究、もしくは考えようとする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「障害者福祉研究」は、研究者の養成のための講座ではありません。受講者の身近なテーマを基にして障害者の問題を国内法や諸政策を国際的な条約との整合性から探り、その内容を精査します。</p> <p>特に、ICF(国際生活機能分類)により「日常生活の不便さ」まで一般化されてきている障害考え方が職場や地域の活動に浸透しない理由や、背景に潜む偏見の意識に照らし、それを無くするためには、自分たちに何ができるのかを、受講者の課題と共に一緒に考えます。</p> <p>授業では、障害者の社会参加を促進するために必要な福祉の整備について、環境の側面だけではなく、今日の家族観、共生の考え方から内容を考察します。そのため、受講者の学修に必要な情報を、適時、クラスルーム等で共有します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：今日、生じている障害者をめぐる問題について(情報化時代の人間観とは)</p> <p>第2回：ICF 成立の過程と障害観の変遷</p> <p>第3回：生活モデルの提言は社会を変えたのか</p> <p>第4回：障害者福祉に影響を与えた歴史的なできごと 「世界的な動向及び日本の動向」</p> <p>第5回：障害者福祉と地域生活－映画や文学作品により現状を把握する－</p> <p>第6回：障害者福祉と医学・看護との関連－映画や文学作品により現状を把握する－</p> <p>第7回：障害者福祉と保育・教育との関連－映画や文学作品により現状を把握する－</p> <p>第8回：障害者福祉と自立生活及び就労と現状分析－受講者の体験など現状を分析する－</p>			

- 第9回：障害者への理解は進んでいるのか (1) ボランティアとは何か
 第10回：障害者への理解は進んでいるのか (2) バリアフリーとコンフリクト
 第11回：障害者への理解は進んでいるのか (3) ソーシャル・キャピタルと福祉概念
 第12回：橋渡し型ネットワークと結合型ネットワークの違いと、それぞれの利点および課題
 第13回：実践的障害者福祉論その1 —自らとの関係を考える—
 第14回：実践的障害者福祉論その2 —支援計画の立案と実践—
 第15回：実践的障害者福祉論その3 —共生社会実現に向けた諸課題—
 定期試験

学修内容を深めるための履修概念の Point

- Point1 教科書に記されている概要から「障害者福祉研究」が求める課題を整理する。
 Point2 「社会福祉制度の変遷と社会福祉制度に存在する課題」から世相を概観する。
 Point3 「障害と社会参加に必要な環境の考え方」を探る。
 Point4 「社会参加と教育及び生活支援」を考えた場合に、立ちはだかる課題に関連付けて自己課題を整理する。
 Point5 「国際的動向と今後の障害者福祉のあり方」で、日本に課された課題とは何かを考える。
 Point6 「社会参加に必要なソーシャル・キャピタル論」で、もう一度全体を再考察する。

学修の支援

- ①準備しているレポートの内容と、そこから得られる課題事項とそれら課題に向き合う受講者の考え方について、適時、クラスルームを通して助言を行う。
 ②本講座では、教科書 2 冊を示しているが、この教科書を基にして「授業目標」にある「橋渡し型ネットワーク」構築の観点からそれぞれの実践が進むようになることを願っている。
 ③最終的に上記「学位授与の方針との関係」に示す「社会啓発の観点から障害観や教育論、医療・看護の概念等、社会一般が持つ意識を整理した授業を進めている。この概念は、本学が掲げる『共生科学』の基本構成要素を探求する人材育成に寄与する」ための意識形成と倫理観につながる。

テキスト

- (1) 佐藤 久夫・小澤 温『障害者福祉の世界 第5版』有斐閣 2016年
 (2) 稲葉 陽二『ソーシャル・キャピタル入門 孤立から絆へ』中央公論新社 2011年

参考書・参考資料等

- (1) 室田 保夫 (編著)『人物でよむ近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルバ書房
 (2) ピーター・ミットラー (著) 山口 薫 (訳)『インクルージョン教育への道』東京大学出版会
 (3) 藤本文朗・小川 克正『障害児教育学の現状・課題・将来 改訂版』培風館
 (4) 障害者福祉研究会 (編)『ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－』中央法規
 (5) 広井 良典『持続可能な福祉社会－「もう一つの日本」の構想－』ちくま新書
 (6) 小浜 逸郎『弱者とはだれか』PHP 選書
 (7) 杉本章『障害者はどう生きてきたか－戦前・戦後障害者運動史－増補改訂版』現代書館
 (8) 石部 元雄・上田 征三・高橋 実・柳本 雄次 (編)『よくわかる障害児教育第2版』ミネルバ書房

- (9) 茂木 俊彦『障害児教育を考える』岩波新書
- (10) 石原 邦雄『改訂版 家族のストレスとサポート』放送大学教育振興会
- (11) ロバート・パットナム著 柴内 康文(訳)『孤独なボーリングー米国コミュニティの崩壊と再生ー』柏書房
- (12) ロバート・パットナム著『われらの子どもー米国における機会格差の拡大ー』創元社
- (13) 川本 敏郎『こころみ学園 奇蹟のワイン』日本放送協会
- (14) 山岸俊男著『安心社会から信頼社会ー日本型システムの行方ー』中公新書
- (15) 吉村英夫著『ヘタな人生論より寅さんのひと言』河出文庫
- (16) ジョン・ロールズ著 川本隆史訳『正義論改訂版』紀伊国屋書店
- (17) ブレディみかこ著『子どもたちの階級闘争 ブロック・ブリテンの無料託児所からみすず書房
- (18) 川崎一彦・澤野由紀子・鈴木賢志・西浦和樹・アールベリエル松井久子著『みんなの教育 スウェーデンの「人を育てる」国家戦略』ミツイパブリッシング
- (19) 吉野源三郎原作・羽賀翔一漫画『君たちはどう生きるか』マガジンハウス

学生に対する評価

レポート評価(50%)、科目修得試験(50%)を総合して評価する。